

# 北海道師範塾 塾頭通信

## 「教師の道」

第929号 平成27年5月14日

### 君に友達はいらない…？

「1年生になったら、友だち100人出来るかな…」という、まど・みちお作詞、山本直純作曲のこの歌を、知らない人は殆どいないと思います。

いま、朝の登校時には黄色いカバーをかけたランドセルを背負ったピカピカの小学1年生の、元気に登校している姿が目につきます。この子ども達が、屈託なく、すくすくと成長してくれる事を願わずにはおられません。

ところで、「1年生になったら」という歌で代表されるように、私達は、「友だちは沢山いる事が良い」という感覚が強いと思います。

確かに、自分には友だちが沢山いるという人は自信ありげに見えますし、一方、友だちがいないという事になると、何となく引け目を感じたり、「自分には魅力がないのかな」と自信を無くしたり、場合によっては引き籠りになったりする人もいます。

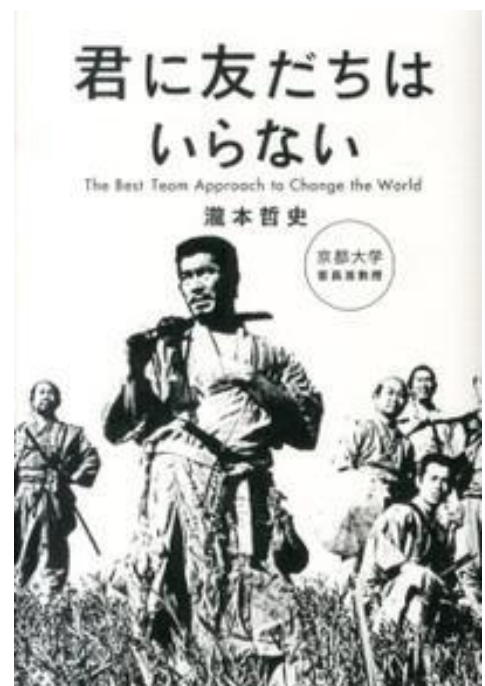
「あいつは友だちも作れないのか」と馬鹿にされるのも嫌なので、友だちがいるふりをする等という事も起こり得ます。誠に、友だちという存在は、悩みの種とって良いでしょう。

だからという訳ではないですが、現代人の多くは、LINE等の無料アプリを使って繋がろうとし、ネットで繋がる事で友だちとなっているような安心感を得ているのではないかと思います。

こうした中、投資家であり、京都大学産官学連携本部イノベーション・マネジメント・サイエンス研究部門の客員准教授をされている瀧本哲史氏の手になる「君に友だちはいない」というタイトルの本を目にした時は、正直驚きました。

友だちの存在は大事だと思っている人が多いのに、随分大胆なタイトルだなと思うのと同時に、「人は孤立しては生きて行けないではないか」と多少反発する気分でこの本を手に取りました。

しかし、「友達はいらない」という本は、良い意味で私の予想を裏切るものでした。この本は、実は「一人で大丈夫」というような孤立の勧めではありません。むしろ



ろ、世界規模でグローバル化しつつある現代社会の中で一人では何も出来ないという現実を示し、その上で、仲間作りの重要性を説く、いわば「仲間作り」の指南書といっても良いでしょう。

そして、仲間というのはプロジェクトであり、表紙を飾る「七人の侍」はその典型だとしています。

何故仲間作りが必要なのかについて、瀧本氏は、ハイテク家電やパソコンだけでなく、人間もコモディティ化しているからだと述べています。

コモディティというのは、瀧本氏の言を借りれば、「もともと『日用品』を意味する言葉だが、経済学では『どのメーカーの製品を買っても大した差がない、成熟した商品』の事」を指し、現代社会では、商品のみならず人間についても、誰を雇っても大して差がない、つまり、「人間のコモディティ化」が進んでいるとしています。

今、大きな社会問題となっている「ブラック企業」の存在や、非正規労働者が増え、働いても、働いても暮らしが楽にならないのも、「人間のコモディティ化」がもたらしている現実だと、瀧本氏は指摘しています。そして、世界のグローバル化に背を向ける事は出来ないが、そうした中で、我々が「コモディティ化」から逃れ、人間としてより豊かに、幸福に生きるためには「仲間」を作らなければならないと主張しています。

「七人の侍」は、日本を代表する映画監督、黒澤明氏の作品である事は皆さんご承知の事だと思います。私は、この映画を劇場やビデオ等で何度も観ていますが、何度見ても、その都度新鮮な感動を覚えます。その一番の理由は、個性溢れる登場人物と息も付かせぬストーリーの展開にあります。私が何より惹かれるのは、「勘兵衛」の存在です。彼は、野盗の収奪により困窮している農民達を救う事を決意し、適材（仲間）を集めてプロジェクトチームを立ち上げ、冷静で、緻密な戦略を立て、農民達をも巻き込んで総力戦で野盗と戦い勝利します。常に、沈着冷静で、それでいて行動力がある。しかし、厳しいだけではなく、人間的な優しさを備えている、まさにリーダーの理想像といっても過言ではありません。

「七人の侍」というプロジェクトチームは、「勘兵衛」という傑出したリーダーの存在があっただけで始めて大きな事業を成し遂げたのですが、しかし、「勘兵衛」一人では何事もなし得なかった事もまた、いうまでもありません。

「七人の侍」が、一つの目的（それは理想や夢という言葉に置き換える事も可能だと思います）を共有し、それぞれの持てる力を最大限に発揮して、初めてプロジェクトは成功したといえます。

この「七人の侍」は、友だち同士の仲良しクラブではありません。それぞれの個性がぶつかり合う、専門家集団といった方が良いでしょう。このともすれば、勝手に走り出しそうな集団を一つに束ねているのが、「勘兵衛」というリーダーの力です。

瀧本氏が「君に友だちはいらぬ」といっているのは、「SNSで絡んだり、『イイね!』

するだけの『友だちは』はいらない」という事なのです。

つるんで歩くような友達はいなくとも、自分の思いや目標を共有し、共に戦ってくれる仲間を作る事が出来れば、自分が持っている力以上の事が出来る、これは、北海道師範塾の活動を通して、私自身が実感している事でもあります。

ただ、仲間を作るというのは、簡単な事ではありません。相当のパワーが必要です。リスクもあります。だからこそ、自分自身を鍛える必要があるのだと思います。

「なあなあ」というぬるま湯につかっていると、居心地は良いかも知れませんが、身体はふやけて使い物にならなくなります。

自分にもやりたい事や夢はあるけれど、「自分は友だちを作るのが苦手で人付き合いが下手だから何も出来ない」等と知っているだけでは、何も変わりません。ぬるま湯から出た瞬間は寒さで身も震え、風邪を引くかもしれませんが、ともかく仲間を作るために立ち上がる、その最初の勇気と行動が極めて大事だという事です。

(塾頭：吉田 洋一)